

二〇二三年度学力試験問題の「出題意図」・「評価ポイント」について

国語【昼間コース 一般選抜・前期日程】

問題 一

出題意図

言語の仕組みや言語学の基本的な事柄について、教養として理解すべき内容を筆者なりに抽出し説明した書より、自然記号と人為記号について書かれた文章からの出題となる。「あるもの」が、それ自体としてではなく、何か別の特定のものとの関連で想起される場合、その「あるもの」を記号というが、それには大別して自然界における特定の原因と結果の結びつきを示す自然記号と、人間が社会的な約束事として人為的に決めた人為記号の二つがあるという。出題の意図は、この自然記号と人為記号の違いについて、内容を正確に把握、理解できているかを問うものである。設問は、基本的な語彙力を問うとともに、文意・文脈を適切に把握できているか、筆者の主張や要点を正しく読み取り、適切に要約できるか、自然記号と人為記号の具体例を設問文の指示に従い選択できているかを問うもので構成されている。

評価ポイント

問一 一般的な評論文等で用いられる範囲の難易度の漢字について、書き取りが正確にできていること。

問二 文脈や語意を正確に把握し、的確な語句を見つけ出せること。

問三 文脈を正確に把握し、適切な語句を選び出せること。

問四 該当部分が示す箇所を正確に把握し、設問文の指示に従って書けていること。

問五 設問文の意図を正確に把握し、その内容を適切な文章として要約、説明できること。

問六 問題文の「ピュセイ」と「テセイ」の意味を正確に把握し、それぞれに対応する具体例を本文中より設問文の指示に従って適切に記述できること。

問題二

出題意図

古文に頻出する古語や定型的表現を理解しているか、高等学校で学習する古典文法や和歌についての知識を一定以上習得しているかを問う。また、これらを用いて、古文の文章、意味・内容（文脈・状況設定や登場人物の考え・心情など）を正確に把握できているかどうかをみる。さらに、日本古典文学史について基礎的な知識を持っているかを確認する。

評価ポイント

問一 古文でよく見られる古語を正しく読み書くことができていること。

問二 古歌の贈歌に対する返歌の中で、作者が贈歌に詠まれた語句を詠み込んでいることを理解していること。

問三・問四 古い物語である『伊勢物語』とそこで詠まれた和歌を踏まえた文章になっていることを理解していること。『伊勢物語』の和歌の該当表現を正しく選び書くことができていること。

問五 日本史上でも古典文学でも有名な人物の名前を漢字で正しく書くことができていること。

問六 作者が京を出発しようとしているところであるという該当箇所状況と、古語・古典文法を理解できていること。正しい現代日本語に訳すことができていること。

問七 次の①～③を理解できていること。正しい現代日本語で説明できていること。

① 饒別の品として衣などの贈り物を受け取るという点で、『伊勢物語』の登場人物と作者には状況や心情の共通性がある。

② 本文の表現の中で、「あるは涙のふる」部分は『伊勢物語』の和歌から取られ、「ふるまわぬ」部分は古物語の意味である。

③ 「ふる」部分が「降る」「古（き）」の掛詞となっている。

問題三

出題意図

問題文は、行為は自由意志に基づくものであるがゆえに行為者は責任を負うという一般的な理解について検討したものである。「決定論」や「因果律」といった馴染みのない用語もあり、やや難解な文章であるが、段落ごとに読み解いていくことで、高等学校卒業程度の基本的な国語力があれば理解可能である。設問は、基本的な語彙力、筆者の主張を正確に読解した上で、文意・文脈あるいは文の構造を適切に把握できているか、さらには筆者の主張を正しく読み取るとともに適切に要約できているかを問うもので構成されている。

評価ポイント

- 問一 一般的な評論等で用いられる範囲の難易度の漢字について、書き取り・読み取りが正確にできていること。
- 問二 問題文全体の文脈と各段落の文意を正しく把握し、各文をつなぐ語を適切に選択できていること。
- 問三 傍線部の意味を理解するとともに該当部を適切に抜き出せていること。
- 問四 問題文の文脈を理解し、適切な語句を本文から抜き出せていること。
- 問五 問題文全体の文脈を理解し、抜き出された引用文の位置を適切に判断できていること。
- 問六 問題文の内容全体を理解し、その正誤を正確に判断できていること。
- 問七 問題文中における筆者の主張の肝要な部分を読み取るとともに指定の語句を用いて、字数制限に合わせて表現できていること。

問題四

出題意図

問題文は、『論語』の一節と唐の名作家による著名な文章である。文章は『論語』に基づき、たとえ困難な状況にあっても決して心を乱さない、孔子や名賢たちの生き方を敬慕する心情を述べている。語彙は平易であり、文意も明快であるから、高等学校までに学習した漢字・漢語・漢文の能力を用いれば容易に理解できよう。問題では漢語や漢文の理解度、漢文法の知識や習熟度を確認するとともに、二つの文章を正確に読み取り、両者の関係を十分に理解できているかを問うた。

評価ポイント

問一 漢語の知識と漢文の語法を用いて正しく読み下せていること。

問二 漢字・漢語の意味を正しく理解し、本文の内容に沿って正しい日本語に訳せていること。

問三 『論語』および孔子とその弟子に関する基本的な知識に基づき、正しく答えられていること。

問四 対句を読み取り、漢文の語順にしたがって、漢語を正しく並べ替えられていること。

問五 漢文の語法を理解し、本文の内容を踏まえて正しく返り点を付けられていること。

問六 基本的な漢語の知識を用い、文意に即して正しく解答できていること。

問七 二つの文章を正確に読み取り、両者の関係を理解した上で、正しい日本語で的確に説明できていること。